

第5次神戸市基本計画のあらまし

2025年に向けた「神戸づくりの指針」
5年間で実行する「神戸 2015 ビジョン」と「各区計画」



神戸のこれから
「ひと」を「たから」とし、
新たな豊かさ^{きょうそう}をともに創造する、
「協創」のまちへ

*Message
from Kobe*



平成 23 年 2 月

これからのまちづくり

神戸市では2025年のまちの姿をみすえて、「第5次神戸市基本計画」をつくりました。
まずは計画の全体像を紹介します。



神戸のまちがより魅力あふれるために



神戸市長
や だ たつ お
矢 田 立 郎

私たちの神戸のまちは、1995年に阪神・淡路大震災の大きな被害を受けて以来、市民同士が助け合い、また国内外から多くの暖かい支援をいただきながら、復興の長い道のりを歩んできました。甚大な被害をもたらした東日本大震災をはじめとする災害にあたっては、被災地としての経験を活かして全力で支援に取り組むことが、私たちの使命であると考えています。

この「第5次神戸市基本計画」は、少子・超高齢化の急速な進行などさまざまな課題が山積する時代にあって、震災復興の中で輝きを

増した人と人との絆きずなを活かし、「ひと」を「たから」として新たな豊かさとともに創造する「協創きょうそう」の理念によるまちづくりを進めるための道標として、多くの市民・有識者などの参画を得て策定したものです。また、この基本計画の取り組みを下支えするため、「神戸市行財政改革2015」をあわせて策定しました。

これらの計画を、市民・事業者の皆様と力を合わせて実行してまいります。これまで以上に魅力あふれる神戸のまちを、ともに創っていきましょう。

将来に向けた神戸づくりのお話。

まず、2025年に向けた神戸づくりの方向性について、お話を進めていきましょう。市民みんなが積極的にまちづくりにかかわることで、新たな豊かさがつくり出されます。



Q 神戸の現状とこれからの知りたい!

A 神戸の現状と将来直面するさまざまな課題、指針の視点を示します。

→第1話 3 ページへ

Q まちの「かたち」やまちづくりの「しくみ」は、どうなるの?

A 取り組みを実現するためのまちの姿と、「協働」と「参画」のさらなる取り組み、神戸づくりを支えるしくみなどを示します。

→第5~6話 7~8 ページへ

Q わたしたちの「暮らし」はどうなるの?

A 暮らしを守り、経済を活性化させ、将来の人材を育み、まちの魅力を高め引き継いでいくための取り組みを示します。

→第2~4話 4~6 ページへ

Q だれがこれからの神戸をつくっていくの?

A グローバル化に対応し、世界中から多様な「ひと」が集まり、交流して活躍する、未来の神戸づくりの基本を示します。

→第7話・エピローグ 9~10 ページへ

神戸のいま、そして未来。

2025年、神戸はどんな姿になっているでしょうか？ また、どんなふうになってほしいと思いますか？ それを考えるためにはまず、いまの神戸のようすをよく知ることと、そこから見えてくる問題にどう取り組めばいいのかを、一人ひとりが考える必要があります。まずは、いまの神戸をとりまく社会の動きを整理し、分析するとともに、これからの神戸づくりを進めるための基本的なまちづくりの方法と、神戸がめざす未来のまちの姿を見てみましょう。

神戸をとりまく課題

<p>少子・超高齢化</p> <p>今後15年間で65歳未満の人口が15万人以上減り、65歳以上の人口は10万人近く増えると予測されています。長期的には市全体の人口も減ることが予測されています。</p>	<p>社会・経済のグローバル化</p> <p>国を越えた人・物・情報などの流れがますます活発になる中で、産業構造も変化し、世界経済の動向がわたしたちの暮らしにも直接大きな影響を与えるようになっていきます。</p>	<p>地球温暖化防止への取り組み</p> <p>二酸化炭素などの「温室効果ガス」の排出量を減らすため、わたしたちのライフスタイルをはじめ、交通など都市の構造、産業のありかたにも変化が求められています。</p>	<p>地方の役割の重要性</p> <p>神戸市は政令指定都市として多くの行政サービスを提供している一方で、配分されている財源は十分ではありません。市民の声を活かしてまちをつくる「地域主権」が実現できるしくみが必要です。</p>
--	---	---	--

現状から見えてくること

神戸のまちの力を維持し、高めていくためには、次のことが必要。

- 生まれる子どもや市外から移り住む人の数を増やす。
- 関西のほかの都市と協力して、世界でも通用する大きな経済地域をつくる。
- 防災や低炭素社会の実現に向けた取り組みを進める。 など。

これからの神戸づくりのポイント

創造都市の実現

人の創造力と、神戸が持っているまちの魅力や資源、震災復興に取り組む中で得た経験などを活かし、「デザイン」で暮らしを豊かに、経済を元気にする創造都市(デザイン都市)をめざします。

市民・地域・広域それぞれの視点

- 市民一人ひとりが持つ能力を発揮し支え合う。
- 地域のつながりを活かしたまちづくりを進める。
- 広域的に国内外への発信力を高める。という3つの視点でまちづくりを進めます。

神戸の現状を考えると…。

くらしと経済のこれから。

グローバル化が進むにつれて、世界経済の動きに直接影響されるようになり、仕事をとりまく環境なども大きく変わってきたわたしたちのくらし。いままでにない速さで少子・超高齢化が進んでいることも、将来への不安につながっています。このため、くらしの基礎となる福祉や健康、雇用、産業振興などの各分野でくらしを守ることからはじめ、経済を発展させて、くらしを安定させる取り組みを進めていきましょう。

まずはくらしを守り
経済を発展させる。

ともに支え合う社会をつくる

高齢や障がい、貧困などで支援を必要とする人への対応を充実させます。また、身近な場所で情報を得たり、見守ったり助け合ったりできる地域福祉のネットワークをつくり、すべての人を包み込む社会をめざします。

安心なくらしを守る

生活習慣病予防や医療体制の充実など、健康にくらせるための環境づくりを進めます。また、住まいに困っている人を支え、詐欺などの被害を防ぐための見守りも行います。

くらし

働きやすい環境を整える

くらしを守るためにも、企業誘致などにより、働く場をつくり出します。また、市民のみなさんが育児や家事、趣味などの生活と仕事を両立できるための取り組みも行います。

くらしに身近な産業を振興する

農漁業では都市近郊にある立地を活かした「地産地消」を進めます。また商業では、個店の魅力を高め、まちづくりと一体となった活性化を進めます。

ものづくりを核に産業の高付加価値化を図る

温暖化防止に関係するエネルギーの分野など、これから成長する分野を強化します。また、企業と大学が連携することでものづくりの技術を高めたり、デザインやサービスでものの価値を高めたりすることを応援します。

経済

観光交流と企業誘致を進める

まちの魅力を活かして、国際会議や展示会、企業の旅行などに神戸を選んでもらう取り組みを進めます。また、交通の利便さや先進的なプロジェクトなどを最大限に活かし、企業に拠点をつくってもらうよう働きかけていきます。

未来に向けた人づくり。

神戸がこれからもずっと発展し続けるためには、まちが成長する力を高めなくてはなりません。そのために、一人ひとりの違いや個性を認めて尊重し合うとともに、次の時代を担う子どもたちや若者が健やかに成長し、活躍できるまちをめざします。さらに、文化や芸術で人々の感性やまちの魅力を高めたり、最先端の医療などの産業を盛んにしたり、大学などの高等教育機関が集まっていることを活かした取り組みなど、神戸ならではのまちづくりを進めていきます。

一人ひとりを大切に

一人ひとりが大切にされ、だれもが社会に参画できる「ユニバーサル社会」をめざします。

子どもを健やかに育む

学校教育を充実させて、また家庭や地域の「子育て力」の向上をめざし、さまざまな形で子どもや家庭を応援します。

神戸の文化を継承し創造する

神戸らしい文化や芸術をまちづくりに取り入れ、「神戸」というブランドとしてのまちの力をもっと高めることをめざします。

「知の集積」を活かす

高度な治療ができる病院やそれに関する分野の企業を応援して、医療産業都市をめざします。そして、次世代スーパーコンピュータや、市内の教育機関の知恵や技術を役立てる方法を考えます。

市民みんなが活躍できるまちへ。



安全で魅力あふれるまちを未来へ。

生活や企業活動などの毎日の暮らしを安心して営むためには、まずその舞台となるまちが、これからもずっと続いていくことが欠かせません。そのために、震災で学んだことを活かした防災や減災の取り組みとともに、山や海などを守る取り組みを進めます。同時に、地球全体の課題である温暖化問題にも対応したまちづくりを進めていきます。みなさんも一緒に、安全で自然豊かな魅力あふれる神戸を、次の世代にもそのまた次の世代にも、ずっと受け継いでいきましょう。

まちの安全を確保する

まちの基盤となる施設を長く安全に使えるようにします。また、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を育て、災害が起こったときでも被害を最小限に抑えるまちをめざします。

まちの美しさと魅力を守り高める

美しい海や山などの自然環境や異国情緒あふれるまちなみを計画的に守り育てることで、魅力と特色のある景観を将来に受け継ぐことをめざします。

低炭素社会を実現する

まちの機能や交通環境、エネルギーの使い方などさまざまな面から、環境に負担をかけない暮らしを考えていきます。また、低炭素社会づくりに貢献する産業の発展も応援します。

防災はもちろん、環境もよりよくしていく。



神戸を支えるまちづくり。

市民のみなさんや神戸に拠点を持つ事業者などの、あらゆる活動の舞台となるまち。くらしをもっと豊かにし、経済を元気にするためには、安全で快適なことはもちろん、心地よく過ごすことができる都市空間づくりがとても大切です。そこで、これまで築いてきた都市の基盤を活かして、さらにまちの機能を高めるとともに、まちの中や周囲に広がる豊かな自然環境とも調和するまちをめざします。また、市内のそれぞれの地域の特性をもっと活かす取り組みを進めます。

めざすまちの姿

豊かな自然環境を保全・活用するとともに、神戸の魅力をつくり出すさまざまな都市機能が集まるエリアや拠点を配置。低炭素社会を実現する持続可能なまちづくりを進めます。

自然と調和しながらまちを活性化。

地域の特性を活かした土地利用を図る

神戸のまちをつくる「まち・田園・みどり」の3つのゾーンを維持しながらもっと活かす取り組みを進めます。また、住宅の開発による市街化区域の広がりすぎを抑えるなど、土地の正しい使い方も一緒に考えていきます。

海・空・陸の総合交通環境をつくる

まちの特徴を活かした交通環境づくりを進めて、これまで以上に神戸での人の交流や経済の活性化を助けます。また、公共交通をもっと利用してもらう取り組みも進めます。



みんなで取り組もう！

民・学・産と行政による「協働と参画」は、将来の神戸づくりに向けた取り組みの基本。これをよりよい形でさらに進めるために、それぞれの責任や役割をみんなで考え、全員が同じ意識を持って行動できるようにしましょう。そして、お互いのきずなや信頼をこれまで以上に深めるためのしくみをつくっていきます。また、みなさん一人ひとりの知恵と力をもっと活かすために、地域主体のまちづくりを進めるための制度やしくみを整え、個性豊かな地域づくりを応援します。

協働と参画をさらに進める

市民・大学等・事業者・市の役割分担のもと、信頼やきずなを深めるためのしくみをこれまで以上に充実させます。

効率的な経営をさらに進める

50年以上前にできた指定都市制度の問題を解決する「新たな大都市制度」をほかの指定都市と一緒に提案。税やお金のしくみも見直して、市民の満足度を高めます。

まちに関わる人たちのきずなをより深く。

みんなで「わがまち」を育む

人と人のつながりを深めて、社会の大きな変化に対応できる豊かなまちづくりをめざします。また、地域の人々が自分の力や判断で地域を運営するための支援を充実させます。

地域の特色ある環境をともに育む

地域の力を活かして、密集市街地の防災の課題や、高齢化したニュータウンの変化に対応。豊かな田園地域を活かす取り組みも進めます。



神戸、世界の中で。

古くから世界とつながってきた神戸。これからも国内や世界で存在感あるまちであり続けるために、さまざまな人材が集まって交流しながら、活躍できる舞台となることをめざします。そこで、まちが直面するいろいろな課題に対応するとともに、一人ひとりの多様性を尊重し、活かしていきます。同時にまちのにぎわいや活力を生む取り組みを積極的に進め、世界に向けて魅力を発信できる神戸に！ みなさんもぜひ、力を合わせていきましょう。

「ひと」が主役のまちづくり。

豊かな自然と異国情緒あふれる、わたしたちの神戸。これまでにないものを生み出そうとする精神や、戦災や水害、阪神・淡路大震災などの苦難を支え合って乗り越えてきた歴史を持つこのまちはいま、これまでにない社会の変化への対応を求められています。神戸は、日本での生協やコミュニティ活動の先駆けとなった地です。先人の歩みを引き継いで、このまちのすべての「ひと」をこれからの神戸づくりに欠かせない「だから」と考え、だれもが深いきずなで結ばれて輝けるまちづくりを進めていきます。一緒に、神戸のまちに新しい豊かさや価値を生み出していきます！

多様な「ひと」が集い・交わり・活きるまちへ

「ひと」に注目した取り組みを、都市ぐるみで進め、多様な人材・事業者などが「集い・交わり・活きる」まちづくりを進めます。

にぎわいと活力をもたらすリーディングエリアを形成する

以下をリーディングエリアとすることをめざします。

- 都心・ウォーターフロント：世界に誇れる「港都 神戸」に。
- ポートアイランド：世界に開かれた未来志向型都市に。
- 兵庫運河周辺：世界に貢献するものづくりのまちに。

世界中のさまざまな人が生き生きと活躍できるまちへ。

合い言葉は
「協創」!!

「ひと」を「だから」とし、新たな豊かさをともに創造する。



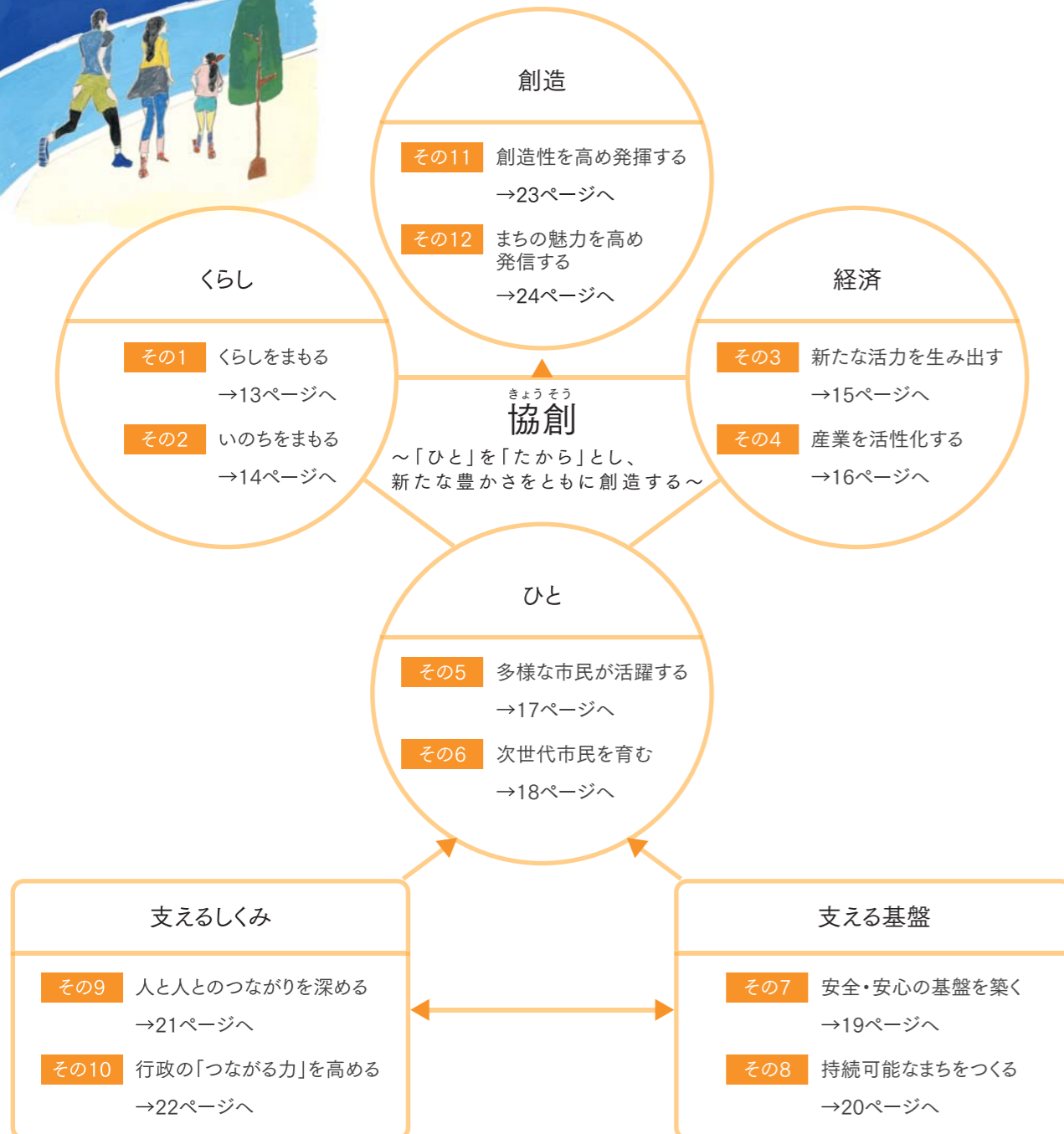
5年間で実行するコト



2～10ページで説明した神戸づくりを実現させるために、神戸市では2015年までに実施する具体的な取り組みを考えました。いのちと暮らしを守り、将来の神戸の成長・発展につなげていきましょう。



目標
くらしと経済を向上させて
新たな価値・魅力を創り出す！



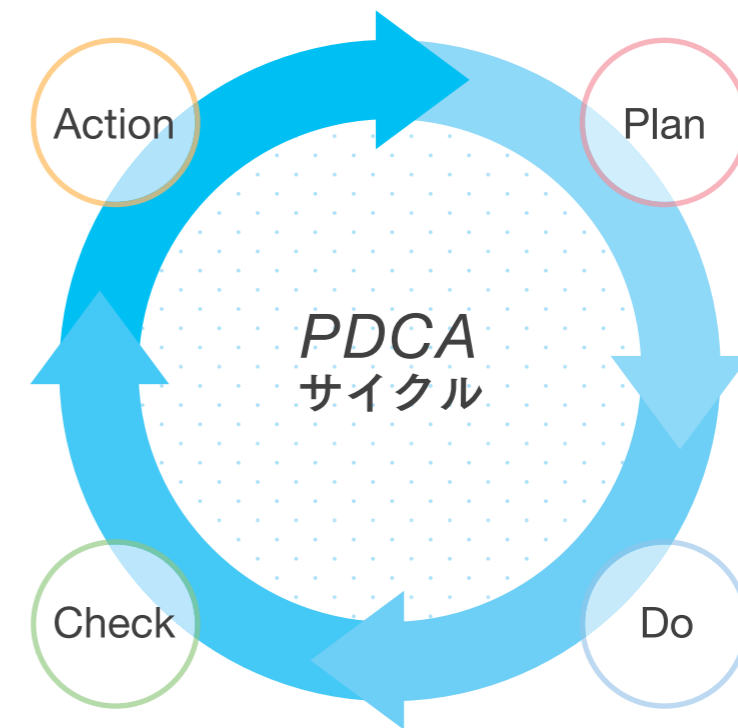
2015年までに実現させるために 進行管理をしっかりと行います



「神戸2015ビジョン」の進行管理役は“PDCAサイクル”です。これは、計画(Plan)・実行(Do)・評価(Check)・改善(Action)というサイクルで、このサイクルによって神戸2015ビジョンはスムーズに、そして着実に進めることができます。具体的には、計画をよりよい形で実現するため、検証・評価の結果や社会経済の動き・変化をもとに、必要となる見直しをしていきます。市は、行財政改革や人材育成を進め、より効率的で質の高いサービスを実施し、市民・大学等・事業者も、自ら担い手として計画を実行します。

PDCAサイクルとは？

計画(Plan)・実行(Do)・評価(Check)・改善(Action)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善すること。



くらしをまもる



少子・高齢化が進み、グローバル化が深まるいま、くらしや仕事に不安を感じている人は少なくないでしょう。神戸市では、こうした時代の変化をとらえたさまざまな取り組みを行うことで、市民のくらしをまもります。具体的には、安全・安心を提供する福祉のしくみを整え、医療を充実させ、住まいや働く場を確保します。互いにつながりのあるこれらの取り組みにより、だれもが豊かでのびのびとした生活を送れることをめざします。



おもな事業

- 「地域福祉ネットワーカー(仮称)」の活動などを通して、きめ細やかな支援ができる地域福祉のネットワークをつくる。
- 身近な場所で安心して相談でき、困りごとについて助け合ったり、専門的支援が円滑に受けられるようなしくみをつくる。
- 2013年度までに2万人の雇用を生み出し、その後の2年間でさらなる雇用を生み出すことをめざす。
- 発達障害者相談窓口と就労推進センターを増やし、障がい者支援や就労支援ネットワークを充実させる。

いのちをまもる



1995年、阪神・淡路大震災の被災地となった神戸市。このときわたしたちは多くの大切なものを失いましたが、同時に「地域を中心とした人と人とのきずな」の大切さも学びました。神戸はこの教訓を活かし、災害に強いまちづくりを進めていきます。また、新型インフルエンザをはじめとする新たな感染症への対策や、自殺問題への対応など、昨今起こっているさまざまな問題に総合的に取り組むことで、市民一人ひとりのいのちを守ります。



おもな事業

- 「危機管理センター」を中心に、災害などが発生したときにすみやかに動き出せる体制をつくる。
- 震災について書かれた文書を保存するとともに、震災の教訓を次の世代へ伝え、国内や海外の人にも伝えていく。
- 「中央市民病院」や「神戸子ども初期急病センター」などを中心に、だれもが安心できる救急医療のしくみをつくる。
- 「自殺予防情報センター(仮称)」などの活動をとおして、自殺をなくすための取り組みを広める。

新たな活力を生み出す



経済が力強く成長することで、市民のくらしは安定し、より豊かなものとなります。神戸のまちが、産業活動に新たな活力を生み出すための取り組みを進めます。医療や低炭素など成長分野の企業を集めるほか、市内の企業の新たな分野へのチャレンジをサポートします。また、産業が育つためのベースとなる海・空・陸の交通ネットワークを見直し、その機能を強め、さらに充実させます。



おもな事業

- 成長分野の企業活動をサポートするエリア(総合特区)をつくるなど、医療や低炭素など成長分野の企業を集め、市民の雇用を生み出す。
- 成長分野を中心にした起業や、市内の企業の新たな事業活動へのチャレンジをサポートする。
- 神戸港と大阪港が一体となった「阪神港」に入る海外のコンテナ貨物量を現在の400万TEUから490万TEUへ増やすことをめざし、港の機能の強化と国際化を進める。
- 飛行機の路線ネットワークの充実、機能の強化やルールの改善などによって、神戸空港をさらに利用しやすくする。
- 重要な地域と地域を結ぶ道路のネットワークづくりを進め、また有料道路を利用しやすいものにするため料金のしくみを見直す。

産業を活性化する



多くの市民が元気に活発に働き、健康で豊かなくらしを送るには、地域の産業の特色を活かし、さらに発展させることが大切。もともと神戸には、ものづくり、農業、漁業、商業など、地域に根づいた豊かな産業があります。これらの産業で頑張る人を応援するとともに、大学や企業とのつながりを強めて、新しい考え方を取り入れてさらに価値を高めます。また、広くアピールすることで販売のすそ野を広げます。



おもな事業

- 市内にある企業のマーケティング力を高め、国内・海外への販売を広げる取り組みを進める。
- 次世代スーパーコンピュータの利用と活用を進めることなどにより、市内の企業の技術を高め、価値を高める。
- 地域で生産された農産物や水産物を地域で消費する(地産地消)とともに、ブランド化することで価値を高める。
- インターネットなどを通じ小売店の情報を発信するとともに、都市型の商業の魅力を高めることで、にぎわいのある商店街・小売店をめざす。

多様な市民が活躍する



お互いに人権を尊重し、いろいろな考え方や生き方を認め合うことが大切です。そのうえで、誰もが利用しやすいまちや建物、製品、環境、サービスなど、「ユニバーサルデザイン(UD)」の推進に取り組めます。そして、多様な市民がそれぞれの能力を活かし活躍できるまちづくりを進めます。また、すべての市民が感性豊かに生きがいをもって暮らすことができるよう、文化芸術やスポーツを身近に楽しめる環境もつくりまします。



おもな事業

- ユニバーサルデザインを広めるとともに、地域ごとのきめ細かい取り組みによって市民の理解を深める。
- 文化芸術を生み出す「人づくり」に力を入れ、文化芸術を活かした「まちづくり」を進める。
- 皆がそれぞれ自分の能力を活かすことができ、活躍できるまちづくりを進める。
- 神戸マラソン大会をはじめ、大きなスポーツイベントを開くことなどを通して、スポーツを盛んにする。

次世代市民を育む



少子化が進むとともに、家庭や地域での教育力の低下が心配されています。神戸市では、妊娠・出産・育児から教育・虐待の問題まで、さまざまな取り組みを通して、子育てをしている家庭を支えます。すべての人が安心とゆとりを持って子どもを産み、育てることができるまちをめざします。また、豊かな心の育成や学校教育の充実、障がいのある子どもへの療育・教育の充実などをさらに進めることで、子どもたちの笑顔にあふれたまちにします。



おもな事業

- 必要な保育サービスが提供できるよう、保育所の定員を増やす取り組みを進める。
- 学校での授業がわかる子ども、運動をすることが好きな子どもを増やすとともに、防災や環境など神戸らしい特色ある教育を進める。
- 病気・病後の子どもの保育や一時保育など、さまざまなニーズにこたえる保育サービスを実現する。
- それぞれの障がいにあわせた教育を行うなど、障がいのある子どもへの支援を充実させる。
- (仮称)「神戸っ子応援団」事業を進めるなど、家庭・地域・学校が一体となった教育支援を行う。
- 児童虐待を防ぐため、関係機関がいっしょに取り組む、小規模グループケアを増やすなど個別ケアにさらに力を注ぐ。
- 「次世代のこどもを育む市民会議」などを通して、社会全体で子どもに命の大切さや社会ルールなどを教え、豊かなこころを育む。

安全・安心の基盤を築く



いつ起きてもおかしくない災害や危機に備えるため、学校や住まいをはじめとするさまざまな建物を地震に耐えるつくりにします。また、古い住宅が多く集まる市街地や浸水の危険がある地域など、防災の面から見直しが必要な地域の安全性を高める取り組みを進めます。さらに、社会生活を送るうえで欠かせない橋や上下水道など、公共施設が長く安心して使えるよう、計画的な維持・補修・更新を進めます。



おもな事業

- 小中学校・幼稚園・特別支援学校・高等学校のすべての校舎を、地震に耐えるつくりにするをめざす。
- まちの施設を地震に耐えるつくりにする取り組みを、住まい(86%→95%)、橋(全92橋)などで進める。
- 密集市街地を防災の面から改善し、また浸水に強いまちづくりなどの取り組みを行う。
- 橋や上下水道、公園など、古くなった公共施設をこれからも長く安全に使えるように維持・補修・更新を進める。

持続可能なまちをつくる



神戸市は海と山に囲まれ、豊かな自然に恵まれています。この自然の恵みを次の世代に残していくために、環境にやさしいまちをめざし、低炭素社会、自然共生社会、循環型社会を目標とした取り組みを進めます。特に六甲山系については、みんなが協力して守ることが求められます。景観やそこに住むさまざまな生き物を守ることはもちろんのこと、豊かな緑がもつ保水力を守ることも、防災の面からとても重要なことだからです。



おもな事業

- 「六甲山森林整備戦略」にもとづいて、六甲山の自然を守り、育てていくための取り組みを総合的に進める。
- 大切な水を有効に使うための水循環のしくみをつくり、また、川やその周辺環境を整え、水と緑にあふれるまちづくりを行う。
- 太陽光やバイオガスなど、再生可能なエネルギー・未利用のエネルギーを取り入れて、低炭素都市をめざす。
- 次世代自動車(電気自動車・プラグインハイブリッド車など)や自転車など、環境にやさしい交通手段の利用を広める。
- 容器包装プラスチックの分別回収や「雑がみ」の資源化などに神戸市全体で取り組み、ごみ処理量をさらに減らす。
- 神戸市全体でエコタウンまちづくりの取り組みを進める。エコタウンを現在の93地区から128地区に、さらに2020年までに全小学校区に広げる。

人と人とのつながりを深める



少子・超高齢化が進むなど、社会経済の様子は大きく変わっています。そんな中で神戸は、震災を機に生まれた地域の人と人とのつながりをさらに深めることで、市民の知恵と力が発揮できる、個性豊かで元気な地域社会をめざします。そして、地域のさまざまな活動がゆるやかにつながり、それぞれの地域の運営を自分たちで総合的に進めるためのサポートを充実。地域の問題解決にあたる「社会的企業」も育てていきます。



おもな事業

- パートナーシップ協定を3地区から9地区に拡大。また、協働のまちづくりを進める「区プラットフォーム」を4区から全区に広げる。
- 市民が安全・安心・快適に暮らすための「わがまち空間構想」づくりの取り組みを、2015年までに10地区に広げる。
- 近年注目されている社会問題を解決する事業に取り組む「社会的企業」を育てる。その企業をサポートするしくみをつくり、さまざまな分野で活躍できる環境を整える。

行政の「つながる力」を高める



情報通信技術（ICT）を積極的に使うことで、市の広報・広聴の働きをさらに充実させます。市民のニーズをとらえ、わかりやすい情報提供を心がけ、市民に身近な行政を進めます。また、関西の4つの政令指定都市のあいだでつながりを深めるなど、まわりの市や町と協力し、関西全体を盛り上げ発展させるための計画を実行。同時に海外の姉妹・友好都市や、ユネスコの創造都市ネットワークなどのきずなを活かし、世界に向けて神戸の魅力をアピールします。



おもな事業

- 「神戸市総合コールセンター」「市民の声集約活用システム」などによって、市民の声を広く聞くしくみを充実させる。
- 市のホームページが市民にとって身近で使いやすいものになるよう改善し、情報を伝える力を高める。
- 区民サービスディレクターを全区に配置し、手厚い区民サービスを提供する。
- 関西4都市市長会議を通じた4都市の協力関係を強化。さらに、「関西広域連合」との連携も強める。

創造性を高め発揮する



それぞれの都市がさまざまな魅力を放つ中、神戸ならではの特徴を活かした「デザイン都市」の取り組みをさらに進めます。成長を続ける創造都市をめざすことで、国内や海外からはさまざまな人が集い、活躍するまちとなることでしょう。また、神戸医療産業都市構想をさらに進めるとともに、次世代スーパーコンピュータを利用して産業を発展させ、大学との協力を深めます。そして、神戸の強み「知の集積」を加速させます。



おもな事業

- 「(仮称)デザイン・クリエイティブセンターKOBЕ」を中心に、創造的人材を育てて集める。登録者数を現在の300人から1,000人に増やす。
- 次世代スーパーコンピュータの利用を広めることで、多くの大学や研究所などを集め、防災など市民の暮らしに役立つ研究に活かす。
- アジアNO.1のバイオメディカルクラスターをめざし、高度専門病院を集め、高度専門医療サービスを提供。医療機器開発も進める。

まちの魅力高め発信する



神戸の魅力的なまちなみや環境をまもり育てていきます。自然・歴史・ライフスタイルがおりなす神戸ならではの観光資源を磨き、訪れる人々への「おもてなし」を充実させます。また、「デザイン都市」を形づくるエリアとなる都心・ウォーターフロントの活性化を図り、先端技術の中心地であり豊かな歴史を持つ兵庫運河周辺の魅力を広くアピール。さまざまな魅力を発信するまち神戸への愛着も深まるでしょう。



おもな事業

- 魅力ある景観を楽しめるスポット(ビューポイント)15か所を整えるなど、神戸の魅力ある景観をまもり育てる。
- 三宮駅周辺の大改造や、新港第1突堤・メリケンパーク周辺の再開発などで、都心・ウォーターフロントの魅力をさらに高める。
- 観光資源を活かし、また国際会議や展示会などを招く活動を通して、観光客を増やす。外国人旅行者数を現在の44万人から100万人にする。
- 歴史的資源や産業景観などを活かして、兵庫運河周辺を中心としたエリアをさらに広くアピールする。

各区の取り組み

市内の9つの区でも、各区の「区民まちづくり会議」が中心となって区民や地域団体などの意見を聞きながら、それぞれの個性や特性を活かした、さまざまな取り組みを考えています。各区が描く将来像と、2015年度までのおもな取り組みを紹介します。



「北区」
**人が集い 安心して暮らせる
 魅力あふれる 緑といで湯のまち**

有馬温泉や歴史文化資源などを活かして多くの人に訪れてもらい、まちの活性化を図ります。また、区内の移動手段の確保も進めます。

「須磨区」
**地域の力と情熱があふれる
 住みよいまち—須磨—**

防犯や防災を学ぶ機会を提供して、地域を担う青少年を育てます。また、須磨の魅力を発信し、楽しんでもらえるしくみもつくります。

「兵庫区」
やさしさと思いやりのまち 兵庫

関係者と地域が力を合わせて、子どもの成長を見守り、育てていきます。また、区の魅力や活力を全体で活用・共有できるように、区の南北交流の“わ”づくりを進めます。

「中央区」
**くらす魅力、つどう魅力、
 多彩な個性が響きあう都心 中央区**

住み続けたいくなる安全で安心なまちをめざします。また、都心機能が集まる区の特徴を活かして、神戸ににぎわいを生み出します。

「西区」
**美しいまち西区
 新しい田園都市をめざして**

農産物の地産地消を推進するほか、自然体験などを通じて都市と農村の交流を進めます。また、区内の企業と住民、行政が力を合わせて安全で安心なまちをめざします。

「東灘区」
**すてきがあふれ、交流の風が
 吹くまち「ふるさと都市・東灘」**

子どもを安心して産み育てられる環境づくりを進めます。また、まちを見る機会を増やし、まちに暮らす人を見守り支えあいます。

「垂水区」
住みたい 住み続けたいまち 垂水

地域活動をさらに活発にしていくとともに、6つの“生活文化圏”ごとに目標を定め、みんながいきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

「長田区」
**世界に誇れ！
 食と鉄人「グー」なまち 長田**

食や歴史など独自の文化を切り口に魅力を発信します。世代を超えた交流を進めて、住む人にとっても楽しく和やかなまちをめざします。

「灘区」
**豊かな自然と笑顔あふれる
 住み続けたいまち**

まちづくりの人材を見つけ育てるとともに、事業者や大学、学生、NPOなどが力を合わせて、住みよく元気なまちをつくりまします。

行財政改革の取り組み

行財政の改革は、これからの神戸づくりを下支えする大切なものです。ここでは、これまでの改革の歩みと、これから予想される課題、「神戸市行財政改革2015」の5つの目標をご紹介します。

これまでどんなことをしてきたの？

神戸のまちは、阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、その復旧・復興のために莫大な財源が必要となり、危機的な財政状況となりました。しかし、このような中であっても「市民の暮らしと安全・安心をまもる」という行政の使命を果たすため、震災直後から具体的な計画にもとづく行財政改革を実施。これまでに職員総定数を約5,500人削減し、実質市債残高も平成16年度以降で、約6,000億円削減してきました。また、すべての事業をチェックして見直しを行うとともに、民間の力を積極的に活用するなど、効果的・効率的な運営を行いました。一方で、ネーミングライツ(スポーツ施設などの名称をつける権利)の導入など、新たな財源確保にも取り組みました。これらの行財政改革により、約2,900億円の財源を生み出し、危機的な財政状況からは脱却することができました。

実質市債残高の削減

約6,000億円
(平成15年度残高の約40%に相当)

事業の見直し

職員総定数の削減

約5,500人
(震災時の約1/4に相当)

民間活力の導入

行財政改革により 市民サービスも向上しています！

行財政改革を行うことで生み出したお金によって、市民サービスの維持はもちろん、さまざまなサービスの向上などを図ってきました。保育所の受入枠拡大や特別養護老人ホームの定員拡大、小中学校の耐震化などを実施。それとともに、昨今の不況の中で、市民生活の基盤となる雇用の確保や神戸経済を支える中小企業への支援などを最優先に取り組んできました。また、区役所窓口の受付時間を延長し、市民の問い合わせに電話1本で対応する「総合コールセンター」も開設しました。

保育所の受入枠を拡大

子育て中のお父さん・お母さんが安心して働けるよう、受け入れ可能な人数を増やしました。

平成15年度 平成22年度(予算)
18,860人 → 22,227人

特別養護老人ホームの定員を拡大

超高齢化社会に対応するため、特別養護老人ホームの定員を拡大しました。

平成15年度 平成22年度(予算)
4,135人 → 4,938人

小中学校の耐震化を促進

災害に強い学校づくりのため、小中学校の耐震化を進めました。

平成15年度 平成22年度(予算)
39% → 92%

子どもの医療サービスを充実

入院医療費の全額助成を中学校修了までに拡大しました。また、「神戸こども初期急病センター」を開設しました。

これからの行財政改革

時代の変化はこれまでの改革の努力をのみ込んでしまうほど急激です。人口減少と少子・超高齢化、グローバル化の進行、そして先行きが不透明な日本経済の動向などを考えると、自治体を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されます。神戸市でも、今後の市税収入や地方交付税の動向が不透明なうえ、社会保障費・医療費が今後も確実に増加し続けます。平成27年度には一般会計の単年度収支不足が約180億円、累積収支不足が約610億円となる見通しです。

しかし!

厳しい状況の中においても行政は、真に必要な市民サービスを将来にわたり確実かつ安定的に提供し、第5次神戸市基本計画で示される今後の神戸づくりを支えるための取り組みを着実に進めなければなりません。

だから!

「神戸市行財政改革 2015」をつくりました

新たに平成23年度から5年間の行財政改革の計画を策定しました。今後は、この計画にもとづき、具体的な取り組みを進めていきます。

同時に

地域主権改革の推進により、国・県・市の役割分担の明確化と、それに見合う税財源の確保が実現されるよう訴えていきます。



「神戸市行財政改革2015」 平成23～27年度の5つの目標

① 市が持っている施設や設備、人など、あらゆる財産を有効活用していきます

仕事のやり方をさらに見直し、限られた人数を有効活用していきます。また、市が所有する施設や設備に適切なメンテナンスを行うことで、長く使ったり、別の用途で再利用できたりするようにします。

② 市の仕事をさらに見直し、最適化をめざします

これまで市が自ら実施していた業務についても、民間の力をさらに活用していきます。また、保育所、幼稚園、学校、海外事務所などを再編し、効果的・効率的な運営をしていきます。

③ 市の関連企業や団体の経営を改革します

市の関わり方や補助などを根本から見直し、外郭団体は10団体以上の削減、市からの派遣職員は30%以上の削減に取り組みます。

④ 市民の目線に立って見直し、外からよく見える行政をめざします

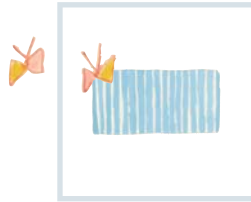
市民が求めていることを的確に把握するとともに、市民へのわかりやすい情報発信を心がけます。市の事業について、計画・実行・評価・改善の4つの流れ(PDCAサイクル)で常にチェックしていきます。

⑤ コンパクトで活力のある市役所にします

平成22年度の職員総定数16,164人の約10%にあたる約1,600人を削減します。また、職員の意欲を高め、少人数でも活力のある市役所を実現します。



2025年(平成37年)に向け、
「ひと」を「たから」とし、
新たな豊かさをともに創造する、
「協創」のまちの実現へ



「計画の内容を詳しく知りたい!」という時は…

▶ インターネットで

第5次神戸市基本計画

検索

<http://www.city.kobe.lg.jp/keikaku.html>

▶ 窓口で

神戸市企画調整局総合計画課(計画全般に関すること)
行財政局行政経営課(行財政改革に関すること)

編集・発行 神戸市企画調整局

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 Tel 078-331-8181(代)

神戸市広報印刷物登録 平成23年度第45号(A-1類)

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBETW

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008